平成 23 年度　益田市景観ワークショップ

2011. 10. 23 実施

制作：近畿大学建築学部都市計画研究室

ますだだより 赤瓦版

平成23年度 第1号

この『ますだだより 赤瓦版』は、平成 23 年度益田市景観ワークショップの内容や感想などを、参加者のみなさんにお伝えするための瓦版です。

はじめに

平成 23 年 10 月 23 日（日）の 13：30 ～ 16：30 に、島根県益田市の西益田地区振興センターにおいて平成 23 年度益田市景観ワークショップ「第 1 回 農村地区」を開催しました。このワークショップは、地域別に全 3 回行うことを予定しています。第 1 回では、農村風景が広がる横田町周辺を対象に、普段見慣れている田んぼや高津川、赤瓦のまち並みについて議論し、現在の農村風景の魅力について考えていただくために開催しました。

日　時■　10 月 23 日（日）
13：30 ～ 16：30
参加者■　21 名（+ 研究室スタッフ 10 名）
会　場■　西益田地区振興センター

ワークショップの流れ

開会・ガイダンス
近畿大学脇田教授から、今回のワークショップの趣旨説明がありました。

まち歩き
各班でポラロイドカメラと写真額縁を持ち、横田町周辺の風景を撮影しました。

景観マップ作成
撮影した写真を地図上に貼りつけ、各班で景観マップを作成しました。

まちの特徴・マップタイトル作成
出来上がったマップを基に、横田町周辺の景観の特徴を整理しました。次に、作成したマップにタイトルを付けました。

全体発表
各班のテーブルリーダーが、議論内容と特徴・マップタイトルを発表しました。

総括
脇田教授から、第 1 回ワークショップのまとめがありました。

平成 23 年度 益田市景観ワークショップ 第 1 回のテーマは農村！

はじめに、近畿大学で都市計画を専門とする脇田祥尚教授から、今回のワークショップの趣旨説明がありました。その後、班ごとに自己紹介を行い、まち歩きに出発しました。

まち歩きでは、横田町周辺の自然や農村風景をゆっくりと見てもらいました。ポラロイドカメラと写真額縁を使って、横田町周辺の美しい風景や残したい風景を撮影していきました。同じ風景を近くから撮ったり、遠くから撮ったり、写真額縁を使って構図を考えたりと撮影方法も工夫しました。

グループディスカッションでは撮影したポラロイド写真を模造紙上に貼り付けながら、景観マップを作成しました。各班、20 枚程度の写真を撮ったので、すぐにマップ上が写真でいっぱいになりました。次に撮影した写真を見ながら“なぜ魅力を感じて撮影したのか”をポストイットに具体的に記入して、班内で共有しました。そして出された意見をまとめながら、まちの特徴について議論し、はじめに作成した景観マップのタイトルを考えました。

グループディスカッションの後に、各班のテーブルリーダーが議論内容、まちの特徴、マップタイトルを発表しました。発表の内容には、それぞれの班に共通するものと、班独自のものが見られました。

最後に、脇田教授によるワークショップのまとめがあり、閉会となりました。

各グループのまとめ

1班　温もりのあるまち

メンバー
椋木　牛尾　島川
大上　尾上（TL*）
*TL：テーブルリーダー

1班 おすすめポイント

- 昔から残る生活
- 昔と変わらぬ風景
- ゆったりとした時間が流れている

まち歩きの様子

注目ポイント

- 蔵が３つもあり、裕福な農村
- 田園そのものの景色が絵になる
- おばちゃんが収穫している風景がいい
- 今昔がみられる
- 高津川と向かい側の家並み（石州瓦）
- 昔の生活が垣間みれる（川船）
- 風呂の煙突や石の水溜めが昔の農村らしい
- 水路に流れる水とその音
- 古い生活観が残っている
- 店が路地の中に溶け込んだ感じが Good ！
- 水生活に根付いている社

他の班が見ていないところもまわり、まち歩きに熱中しました。また、会場に戻ってからは積極的に意見が出されました。

2班　自然・歴史・人、調和がとれたまち

メンバー
原　橋本　水津
篠原　門積（TL*）
*TL：テーブルリーダー

2班 おすすめポイント

- 職人がうみだした素晴らしい蔵
- 緑に合う赤瓦
- 高津川の恵みからうまれた石積み

まち歩きの様子

注目ポイント

- 路地の風景の先、路地の巾、曲がり◎
- 古い瓦は屋根勾配がきつい
- 赤瓦は新しいもの古いもの、鬼瓦にも違いがある
- 石積みでつくられている道
- 鏝絵のある風景
- 柿と民家、畑の調和
- 蔵が多い、漆喰、土壁が良い
- 城跡の山、昔遠足で登った懐かしい景色
- 野菜、果実（柿、蜜柑）
- 畑のある風景

２班の班員として参加された篠原さん（建築家）の説明もあり、２班では益田の新たな一面を垣間見ることができました。

3班　素朴な心と豊かな心

メンバー
篠原　大庭　椋木
正田　宮崎　中尾（TL*）
*TL：テーブルリーダー

3班 おすすめポイント

- 水資源の豊かさ
- 豊かな生活が見える
- 変わらない素朴さ

まち歩きの様子

注目ポイント

- 蔵のある固有の風景
- 松などの庭木の緑
- お天気によって変わる高津川の流れ
- 羽目板の壁を額とした、その先に見える民家風景
- 稲作・畑作の中で、無くてはならない水その水路の管理状況は地域の人にとって血の流れにも等しい
- 高津川の土手越しに見える向横田の赤い屋根群
- 畑の中の集落、ソボクでいい

まちの見方や写真の撮り方にはそれぞれ違いがありましたが、議論を進めるにつれて街の特徴をみんなで整理できました。

4班 歴史・時代が香るまち

メンバー
河野　長谷川　友重
小笠原　山田（TL*）

*TL：テーブルリーダー

4班 おすすめポイント

- 身近にある益田人の赤瓦
- 自然と生活の調和
- 昔の職人の腕が光る蔵の鏝絵

まち歩きの様子

注目ポイント

- 菜園が赤瓦で囲われていて趣がある
- 赤瓦の使い道は様々！まちのいたる所に！
- 蔵が 2 棟在り、旧家の重みを感じる
- 蔵にある様々な種類の鏝絵（こてえ）に注目
- 蔵の下の石垣がとてもいい感じです
- 鏝絵（こてえ）は母屋側が家紋、外側は魔除け！
- 祠（ほこら）の中に家を守る神様がいました
- 水路が多く、川ガニがここから出てくる！
- 母屋、長屋、蔵のバランスがよい
- 赤瓦は明るいイメージ
- 白壁造りの土蔵が生活の中に溶けこんでいる

様々な景観のなかに感じられる歴史の裏を探って、意見が飛び交いました。農村ならではの風景に、新たな発見がありました！

5班 共生する農村

メンバー
野村　石川　寺戸
田中　近藤（TL*）

*TL：テーブルリーダー

5班 おすすめポイント

- 高津川の水を利用した暮らし
- 記憶がよみがえる風景
- 歴史を感じる蔵と赤瓦

まち歩きの様子

注目ポイント

- 土蔵の数が多く、土壁と土台の石垣が魅力
- 庭の松で来客をおもてなし！
- 農業用水を多面的に利用
- まちの中に流れる水路を洗い物に利用
- 山や川の美しさ、ゆるやかな流れ
- 大正時代に建設された鉄橋は歴史を感じる
- お風呂の煙、生活感がある
- 鬼瓦が付いている蔵
- 高津川、匹見川の合流地点
- 赤い屋根瓦と背面の緑の山のコントラストがすばらしい

農村の魅力となる景観について考えました。自然の風景だけでなく、人の生活を感じるところにも注目して、議論がなされました。

まち歩きで撮影した風景

赤瓦と山の緑の組み合わせ

生活と調和する水路

歴史を感じる鉄橋

細い道と先に広がる風景

農村独自の蔵のある風景

農作業をしているおばあちゃん

家の守り神発見！

風情ある石積みの道

参加者の声

車で県道を通り抜けるための向横田町でしたが、改めて土創りの蔵があったり、石積みがあったりして歴史を感じました。

いつもとは違う目線で蔵などを見る事ができて、新しい発見がありました。写真を写すポイントなども勉強になりました。

歩くことによって宝が見えてきました。ゆっくり流れる時間を大切にして人間らしく生きる。あせらない、あせらない生活。

美しい自然と家屋がマッチしていたことを認識。まだまだ知っていない風景、技術があると思います。

文化に反するかもしれないが、変化しないのも文化の様な気がする。

考えをまとめたりするのは難しかったですが、グループの方と一緒に考えるので楽しかったです。

実際に歩いて回って、他の参加者の人のお話を聞くことで全く見る角度が変わりました。

蔵のある景色は今まで気付かなかった。これから時間のある時は、じっくり建物やその周りの風景を見たいと思う。

初めは不安があったが、見慣れた我が町を改めて見直すことが出来た。横田の景観の良さを再確認した。

今住んでいるところですが、普段歩くということはしなくて、新鮮な気持ちで集落を見ることができました。

何気ない風景の中にも、歩いて見ると目に留まる風景もあり、これから意識してまちあるきをしてみようと思います。

高津川の豊かさによる生活の営みが感じられました。川とか水路が良かったです。

どこの地域においても、自慢できるものがあるのと、その多くのものを守り続けているんかなと強く思った。

自分の住んでいないところと住んでいないところの景観の相違があまりにも強く、これから自分の地域を守り続けていくことの大切さを感じた。

農村の良さを再認識する。自分たちの住んでいる町を少しでも良くなるように努力したい。

住んでいると気付かない風景も、他の地区や幅広い層の人が一緒に話し合いながら観る事により、良い面や悪い面等再発見できると感じた。

脇田祥尚教授 ワークショップ総括

今回のワークショップに参加されるまで、横田町周辺の景観はみなさんにとって当たり前の風景だったかもしれません。改めてゆっくりとまちを歩きながら、風景を眺めているうちに、農の生活を感じさせる風景、集落内を流れる水の風景、鏝絵に見られる職人技など、新しい魅力に気づくことが出来ました。グループディスカッションでは自分たちが考える農村風景の魅力を他の参加者と共有したことで、魅力を再認識するとともに、自分だけでは思いつかなかった「何気ない風景の中にある魅力」を知ることが出来たのではないでしょうか。また、山や川などの自然景観、赤瓦のまち並みも重要な景観ですが、発表の中にもあった軒先に掛かるたまねぎや、農作業をしている人なども大切な風景の一つです。これから何気ない風景を見るときには少し視点を変えて、地域独自の風景を探してみてはいかがでしょうか。

次回は漁村の原風景が残る飯浦町を対象に漁村の魅力や課題について議論を行いたいと考えています。是非ご参加ください。

次回案内

第２回　漁村地区　ー飯浦町ー　「漁村の原風景を守る」

日時　１１月１９日（土）
　　　１３：３０～１６：３０

会場　飯浦ふれあい福祉会館
　　　〒699-3761
　　　島根県益田市飯浦町イ -985

漁村の原風景が色濃く残る飯浦町で、独自の風景や文化を再認識すると共に、魅力の活かし方や課題の改善方法について考えます。

お問い合わせ・次回以降のお申し込み

益田市建設部都市デザイン課　TEL　0856-31-0351　e-mail　toshi@city.masuda.lg.jp
〒698-8650　益田市常盤町 1-1　FAX　0856-31-1480

ワークショップの様子を随時掲載！

益田市景観ブログ　いいとこ、み〜つけた！ http://blog.canpan.info/mkeikan/　近畿大学都市計画研究室　http://390831.blog107.fc2.com/